

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600526		
法人名	医療法人 ひまわり会		
事業所名	グループホーム光	ユニット名	2階
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121		
自己評価作成日	平成25年11月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年12月13日	評価結果確定日	平成26年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は質の高い認知症ケアが提供できるように職員の質の向上に積極的に取り組んでいます。外部の研修や施設内の勉強会を通じて職員の見識を高め技術向上につながるよう努めています。認知症ケアはオレンジプラン(厚労省試案)にもあるように従来の「感と経験」のケアではなく正確な知識と技術を基礎に置いたケアの提供が望まれています。認知症ケアのこれまでの実績を踏まえより地域社会に貢献できる施設づくりを目指しています。町内会活動、子供会活動への協力、障害者施設との交流、介護相談活動などに取り組み地域連携に取り組んでいます。わたしたちは入所者様が社会から孤立することなく楽しく生活できるように施設がその役割を担う場になるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はいつも施設内に掲示し勉強会を年1回行い、お互いに啓発しあっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加し子供会で行われる廃品回収などにも積極的に参加している。春の神社のお祭りにや年末の餅つきなどには入所者様とともに参加し地域活動に取り組んでいます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に関催する運営推進会議では栄養や転倒予防などのミニ講習を行っています。そこの教材として作成したパンフレットを区長さんを通じて地域の方のお役に立てるよう配布して地域での理解に努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の状況報告を行っています。ご家族や地域の方々評価・ご意見を伺い事業所運営に生かすよう日々努めています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず地域包括支援センターにご出席いただいています。事業所運営報告などを定期的に行いアドバイスをいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間の研修計画に「権利擁護と虐待予防」を計画し常に職業モラル向上実行に努めています。施錠や抑制につながるベット柵の廃止に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待と権利擁護」を研修計画にいれています。認知症ケアの在り方について内部・外部を問わず常に習得する機会を持ち認知症高齢者の権利擁護に努めています。職員間で相互啓発しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度について勉強会を持ち理解に努めています。パンフレットなど準備し必要に応じて情報提供できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に本人・ご家族様と面談し介護保険制度や施設の運営、重要事項説明書、契約書について理解していただけるように説明しています		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望などのご意見箱をホールカウンターに設置。機会あるごとに運営推進会議などで公表しています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、月例報告を作成し内容を勉強会で説明しています。職員からの意見・提案を伺いながら共同してより良い職場環境が作れるようにしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を作成し職員各自が自己のケア目標を立て振り返りができるようにしています。管理者と面談し自己目標達成に向けて意見交換しできるようにしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては性別・年齢にはこだわらず人柄優先で個人のやる気や認知症ケアへの理解を大切にしている		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護など権利擁護については常に学習の機会を持つように努めています。また入所者様に対しては言葉使いをはじめ尊厳重視の接遇に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協などが実施する研修に職員が自由に参加できる機会を持つようにしている。研修は出勤とみなし、交通費の支給を行い負担軽減に努めている。また施設内研修は業務として評価し1時間の残業を付けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターなどのアドバイスをいただきながら、ネットワークづくりを今後は取り組んでいきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人ご家族と面談しご自宅での生活状況など情報を得るようにしている。サービス担当者会議を開催しご家族の要望が出やすい環境をつくっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込みを記載していただく段階でゆっくりと時間をとりご家族とケア方針などについて話し合うように努めている。ご本人様へのご家族様の想いを傾聴するようにしています		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやケアプランに本人・ご家族様の要望を記載しその実現に心掛けています		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行う関係として相互扶助に努めている。食器拭きや洗濯物たみなど残存能力の維持が行えるように支援し良い信頼関係を築いています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて本人様の状態を説明しています。施設内行事にもご参加いただきながらご家族とゆっくり話し合える関係づくりを行っています		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のご協力を得ながら、本人が慣れ親しんだ理美容店を利用したり、面会のご家族・友人の方たちと談笑できる環境づくりを行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前午後に茶話会を持ち職員が意識的にテーマ出しながら利用者間で会話が進むように心がけています。散歩や買い物など数人単位で外出の機会をつくり共通の話題が持てるようにしています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院されているときなどは頻りに面会に伺ったり、ご家族の心配に対応するなどの支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事やお茶など本人の希望を伺い本人の意向を重視したケアに努めています		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人との会話、ご家族からの情報をもとに一人ひとりの生活歴や生活環境の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前午後の茶話会やリハビリ、食事以外は本人の意向に沿った生活支援を行っています		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に事例検討会を開催し個別ケア計画を検討しています。入所者がのびのびと生活していただける具体的な支援計画作成を心掛けています		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングでの情報共有や生活実行表の記録を通じて本人の変化や状態を把握し状態にあったケア・支援計画を実行しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の介護業務にとらわれず、一人ひとりの要望の実現を優先したケアをしています。散歩や買い物、食事の好みなどに対応するようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や近隣の花公園など公共施設に出掛けるなどして変化のある生活が送れるように支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科や婦人科、眼科に内科などかかりつけ医にいつでも受診できるように支援しています。必要に応じて併設医療機関より紹介状をいただくようにしています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関との連携をしています。毎日、入所者の健康状態を申し送りし夜間などの変化に速やかに対応できるように看護師との連携に努めています		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は面会に伺い、病院関係者との情報交換をしています。医療機関からの入所の場合は多職種の方から情報提供受け、スムーズな入所が可能になるようにしています		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より定期的な状態報告をしていただき治療の方向性や急変時の対応について家人より書面で確認をいただいています。施設としては家族・本人の希望があれば看取りケアを行うようにしています		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医療機関院長より定期的な講習を受けている。また応急手当普及員講習会などに参加し、施設内で日常的な訓練講習をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・避難訓練を定期的に行っています。また運営推進会議などで田川消防本部の方を招き講習会などを開催し防災意識の啓発に努めています。役場などの避難場所を確認し町内会などの支援を確認している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時は居室訪問時のノックなどプライバシーに配慮したケアを行っている。その方の誇りを尊重した寄り添いを心掛けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	茶話会の時は本人がメニューから選んだ飲み物を提供したり外食の機会を持ち好きな食べ物を自由に選択できるような支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や趣味活動など本人が楽しいと思うことを優先していただくように支援している。一人ひとりがマイペースで過ごせるようにしています		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の入所者さんは毎日お化粧をされることが多い。着衣の選択など声かけしお手伝いするようにしています		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や外食など目新しい食事の提供に努めている。毎日のメニューは入所者様の嗜好を取り入れるように努めています。おやつもおはぎやぜんざいなど手作りおやつと一緒に作るようにしています		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを併設医療機関の管理栄養士にカロリーや栄養バランスの管理を行っている。低栄養予防の研修を行い個人の状態に合わせた食事が提供できるように努めている。食事・水分量を記録している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアには十分配慮している。歯周病の方にはガーゼにて随時口腔清拭をしている。毎食後の歯磨き、入れ歯洗浄など状態に合わせたケアを提供しています		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように支援している。随時トイレへの声掛けを行い失敗で本人が落ち込まないように支援しています		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便パターンを把握し食事メニューを検討したり、散歩や気分転換を促しスムーズな排便ができるように支援しています		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴予定は決めています。本人の希望や体調を考慮し自由な入浴ができるように努めています。入浴時はゆっくり会話しながらリラックスしていただけるようにしています		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医とも相談しながらできるだけ7眠剤を使用しないように努めています。本人の睡眠パターンを尊重し昼間は興味のある活動を取り入れ夜間に睡眠できるようにしています		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方薬の効果や副作用など毎回記載し主治医に情報提供しています。負担のない服薬ができるように医療機関と連携しています		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸や工作、散歩や外出など本人が望むことが行えるように支援しています。誕生会など行事食づくりの時は下ごしらえなどできる家事は協力していただくようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときは散歩に出かけたりします。レストランでの食事や買い物などできるだけ自宅にいるときと同じような生活をしていただくようにしています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のスーパーに出掛けて希望するものを自由に購入しレジでは支払いもご自分でされるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご自宅や家族に自由に電話していただくようにしています。手紙も年賀状など書いて出せるように協力しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾り、落ち着いた過ごせるような環境を作っています。入所者の作品など展示し楽しめるようにしています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置きゆつくりと談話したり、おひとりで新聞など読んでいただくようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品々をお部屋に置いていただくなど本人が和める環境づくりを支援しています。植物や家族の写真など大切なものを飾り安心して住めるように支援しています		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手すりを設置、個室にはコール、浴室にはシートショック予防の暖房設備を設置するなど安全で快適な生活が送れるような環境づくりをしています		